



DAIDO CAMPUS

No.87 2016.4



写真提供：アルバム委員会



大同大学
DAIDO UNIVERSITY

学生の 勇姿!



平成 28 年度入学式を挙行了しました

4月1日(金)、本学石井記念体育館で入学式を挙行し、学部生897人、大学院生25人、委託生1名が大同大学の門をくぐりました。

式では、新入生代表として、原野夏生さん(情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻)が「私たちは、大同大学の学生であることに誇りを持ちます。そして、「実学主義」

という大学の理念を胸に、勉学に励み、学生生活が有意義なものになるよう努力することを誓います。」と力強く宣誓しました。

澤岡昭学長は、告辞として「今日より、四年間の学部生活、大学院入学の諸君は二年間の勉学と研究の生活が始まります。これからの学生生活を勉強、研究、スポーツ、サークル活

動、友人との交流を通じて、元気で愉快的思い出に残る学生生活をつくりだすことを心より願っています。」と述べ、エールを送りました。

式後は、「WELCOME TO DU」イベントを在學生たちが開き、クラブ紹介やミニゲーム、ビンゴ大会などを行いました。また、保護者の方向けに新入生父母懇談会も実施しました。



写真提供：アルバム委員会

林秀行さん(工学部 総合機械工学科)

パテントコンテストで入賞しました!

文部科学省・特許庁・日本弁理士会・(独)工業所有権情報・研修館が主催する、平成27年度パテントコンテストで、総合機械工学科の林秀行さんが入賞しました。

パテントコンテストは、高校生、高等専門学校生及び大学生が、自ら考え出した発明について

応募し、優秀な作品を選考・表彰するもの。このコンテストを通じて、高校生、高等専門学校生及び大学生等の知的財産マインドを育てるとともに、知的財産権制度の理解を促進することを目的としています。入賞者は、入賞の特典として実際に特許庁に出願し、特許権・意匠権の取得

までの手続を実体験することができます。

応募総数417件の中から、林さんの発明「転位冠歯車減速機」が大学部門で入賞し、特許出願支援対象者に選ばれました。

横地洋介さん(情報学部 情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻)

2/18(木)中日新聞に卒研の一環として取り組んだプロジェクト「オロシナ」が紹介されました

2月18日(木)の中日新聞で、プロダクトデザイン専攻の横地洋介さんが、卒業研究の一環として取り組んだ下石陶磁器工業協同組合とのプロジェクト「オロシナ」について紹介されました。

「オロシナ」は、横地さんが卒業研究として磁器製品の研究に取り組み、下石陶磁器工業協同組合を訪れたことをきっかけに、下石陶磁器工業協同組合青年部が立ち上げたプロジェクトで、若い人に産地の現状や陶業を伝えること、協業によるものづくりを学ぶこと、マーケットを意識した商品づくりを学ぶことを目的としています。

本学の横地さんや、他大学の学生と、下石陶磁器工業協同組合青年部で5つの混成チームを作り、売る現場を意識しながら商品づくりを

行っており、大手流通バイヤー・デザイナーに商品づくりへのアドバイスをもらいながら、開発を進めています。

記事では、消費者目線の意見を募ろうと展示を開催したことが取り上げられ、名山をかたどったツボ押し、石のような形のオブジェに見える置時計、板チョコ型のアロマディフューザーな

ど6種類の作品と、若い視点での窯業活性化の取り組みとしてプロジェクトが紹介されました。

また、この取り組みは、岐阜新聞でも取り上げられました。



▲中日新聞(2月18日)



女子ハンドボール部

日本ハンドボール選手権大会に出場! 中日新聞でも紹介されました

12月22日(火)～12月27日(日)愛知県体育館と枇杷島スポーツセンターで開催された、第67回 日本ハンドボール選手権大会に、本学女子ハンドボール部が出場しました。また、12月20日(日)付の中日新聞でも出場について、紹介されました。

12月20日(日)付の中日新聞では、女子ハンドボール部が体育館で練習している写真とともに、5月に東海学生春季リーグで初優勝したことや、木村美月主将の「今まで一度も勝ったことのない相手だが、走って走って、勝ち

にいく。『全国でも勝てる』という自信を、後輩たちにプレゼントする」とのコメントが紹介されました。

大会2日目の12月23日(水)には、本学女子ハンドボール部の第1回戦が枇杷島スポーツセンターで行われました。日本選手権大会初出場となったこの大会、4年生を中心に今年度最後の公式戦であることから、集大成の大会として臨みましたが、自分たちのリズムがつかめないうま、大同大学(18-27)日本体育大学で敗戦となってしまいました。

吹奏楽団や男子ハンドボール部は、試合に向けて毎晩遅くまで応援の練習をし、大会当日には大同大学の関係者が数多く応援に訪れました。また、卒業生やご父兄からも大きな声援が送られました。選手たちも、これだけ多くの方々から応援に来ていただいた中でプレーできたことは、何よりうれしかったことと思います。

これからも、女子ハンドボール部の活躍に期待しています。皆様も引き続き、応援をよろしくお願いいたします。



▲中日新聞(12月20日)



学生の 勇姿!

男女ハンドボール部

「第13回レッツジュニアスポーツ体験交流イベント」で スタッフとして参加しました

1月17日(日)、愛知県名古屋にある日本ガイシホールにて行われた、JASS主催「第13回レッツジュニアスポーツ体験交流イベント」に、スポーツディレクター&コーディネーター・講師として本学の佐藤壯一郎監督(男子ハンドボール部)、齊藤慎太郎監督(女子ハンドボール部)が、サポートスタッフとして男女ハンドボール部の学生が参加しました。

レッツジュニアスポーツ体験交流イベントは、ジュニアスポーツの振興と活性化とともに、「複数種類のスポーツ」と「ボールなどを利用した楽しいコーディネーショントレーニング」を体験することによって、競技スポーツとは別にスポーツの楽しさを伝え、今後より多くの子どもたちがスポーツに参加するきっかけとなることを目的としています。

イベントでは、親子や友達同士で楽しく体を動かすコーディネーショントレーニングを行ったり、現役の選手や学生スタッフが指導に入り、安全に留意しながら、野球・サッカー・ソフトテニス・ハンドボールの4種類のスポーツをローテーションで体験&体感したりと、楽しく安全にスポーツをしました。また、ハンドボールとソフトテニスのデモンストレーションマッチも行われました。

第16回大同フェニックスカップの運営をサポート

2月20日(土)、21日(日)に東海市民体育館で開催された、小学生対象のハンドボールの大会「第16回大同フェニックスカップ」で、運営サポートを男女ハンドボール部の学生が行

いました。子供達と触れ合ったり、試合を見て盛り上げながら、運営のサポートを行いました。普段から学生たちが一緒にハンドボールをしている、東

海ハンドボールスクールのチームは高学年の部で女子は優勝、男子は3位とすばらしい結果を残しました。

東海ハンドボールスクールのホームページはこちら http://www.geocities.jp/tokai_handball_sc/index.html

ロボット研究部

「ロボコロ2015 in あいち ITS ワールド」を開催しました

ロボット研究部の学生が、2015年11月20日(金)~23日(月・祝)にポートメッセなごやで開催された名古屋モーターショー内のITSワールドロボット展において、小型二足歩行ロボット競技会「ロボコロ2015 in あいちITSワールド」を22日(日)に開催しました。

ロボット操縦者によって県外も含め合計29台のロボットがエントリーし、午前と午後の部で格闘技のトーナメント試合を行いました。ロボット研究部は大会運営のノウハウを生かして審判や解説者なども務め、ロボットステージは多くの見学者が取り囲む賑わいを見せました。午後の部ではロボット研究部のOBが優勝しました。



命をつなぐプロジェクト学生実行委員会

「知多半島わくわくエコ縁日 GREEN SMILE FESTA」を開催

12月19日(土)、20日(日)知多市旭公民館で、情報学部 総合情報学科 経営情報専攻 大東憲二教授が代表を務める、地球環境を考える会主催の「知多半島わくわくエコ縁日 GREEN SMILE FESTA」が開催され、本学の学生が多く所属する命をつなぐ PROJECT 学生実行委員会が共催として運営等で活躍しました。

教室など、家族で楽しみながら、エコを学ぶことができるというもの。

スペシャルステージ「生き物たちは住宅難? タキツネ物語」では、キツネの故郷である知多半島の環境が変わり始めた理由について、ゆるキャラが子どもにも分かりやすく解説しました。また、「わくわく!エコ縁日」では、自然の素材で工作をするわくわくエコ工房、竹とんぼ飛ばし大会や外来種ゲームなどがあるおもしろエコ大

会、ちびっこアート体験、竹を使った炊き込みご飯の試食コーナーなどが設けられました。

このイベントは、知多地域で放送されているケーブルテレビ「メディアスチャンネル」でも、生物多様性を楽しく学ぶ子供向けのイベントとして取り上げられ、命をつなぐ PROJECT を含め、わくわくエコ工房や、外来種ゲームが紹介されました。

このイベントは、知多半島の生き物や自然をテーマに、ゆるキャラステージやおもしろ体験メディアスチャンネルで放送された映像はこちら http://www.medias-ch.com/movie_detail.php?page=4226

新刊紹介

『現代交通問題考』

共著:小澤茂樹准教授(情報学部 総合情報学科 経営情報専攻)

『現代交通問題考』では、「交通の枠組みと交通問題」、「交通インフラ」、「交通サービス」の3部にわたって、多面的な「交通問題」について20名の研究者がそれぞれ注目すべき問題をテーマとして設定し、各自の立場から考察と分析がなされています。

小澤准教授は第10章「EUにおける路線使用料の実態とEUの役割」(P.124~139)を担当しました。

現代交通問題考



松田航洋さん(大学院 工学研究科 機械工学専攻)

JISSE-14 で学生プレゼンテーション賞を受賞!

2015年12月6日(日)から12月9日(水)まで、石川県政記念 しいのき迎賓館で開催されたJISSE-14(第14回 SAMPE Japan 先端材料技術国際会議)で、大学院 工学研究科 修士課程 機械工学専攻の松田航洋さんが学生プレゼンテーション賞を受賞しました。

この国際会議はシンポジウムと展示会から

構成されており、日刊工業新聞社との共同で開催する展示会は、先端材料とその加工技術を主体にした展示会(SAMPE JAPAN 先端材料技術展2015)となっています。

シンポジウムは「先端材料で幸せを」をテーマに開催され、基調講演、一般論文発表、学生論文発表、企業製品紹介セッション

などが行われました。学生論文発表はすべて英語で行われ、40件という多数の発表の中、見事、松田さんが学生プレゼンテーションを受賞いたしました。

また展示会は、2015年12月2日(水)から4日(金)に東京国際展示場にて行われました。

JISSE-14のホームページはこちら <http://www.sampe.nuae.nagoya-u.ac.jp/jisse14/index.html>

田中智也さん(大学院 情報学研究科 情報学専攻)

電気・電子・情報関係学会東海支部 連合大会で奨励賞を受賞しました

9月28日(月)、29日(火)に名古屋工業大学で行われた、平成27年度電気・電子・情報関係学会東海支部連合大会で、本学大学院 情報研究科 田中智也さんが連合大会奨励賞に選ばれました。

この連合大会は、電気学会 東海支部・電子情報通信学会東海支部・情報処理学会東海支部・照明学会 東海支部・映像情報メ

ディア学会 東海支部・日本音響学会 東海支部・IEEE名古屋支部が主催するもので、2日間にわたり、一般講演や特別講演、ポスターセッション、シンポジウムなどが行われました。一般講演は発表10分、質疑応答2分で596もの発表がなされ、田中さんは、論文「デュアルオブザーバを用いた強安定化制御系設計」を発表し、みごと連合大会奨励賞に



選定されました。

この表彰式は、2016年1月20日(水)に行われました。

◆卒業生も大活躍!

劇的ビフォーアフターに卒業生の柴田達志氏が「匠」として出演

1月31日(日)、2月7日(日)テレビ朝日系列「劇的ビフォーアフター」(日、19:57~20:54)に工学部 建築学科卒業生の柴田達

志氏が「匠」として出演しました。

放送内容は「もったいない家 ~前編~」と、「もったいない家 ~後編~」。2月7日(日)の

「~後編~」は2時間スペシャルで放送され、400万円というわずかな予算で、DIY術を駆使した超節約リフォームを達成しました。

放送内容はこちら <http://www.asahi.co.jp/beforeafter/list.html>

2/17(水)打ち上げ 超小型人工衛星 ChubuSat-2, ChubuSat-3 に卒業生製作の部品が使われています

工学部 総合機械工学科の溝口正信教授や、名古屋大学、中部地方の航空宇宙産業中小企業連合体である MASTT からなるグループが開発した ChubuSat-2 及び、溝口正信教授や、三菱重工業、MASTT からなるグループが開発した ChubuSat-3 に、本学の卒業生 小田康文さんが製作した部品が使われています。

ChubuSat-2、ChubuSat-3 は、超小型人工衛星で2014年8月頃から開発が進められ、2月17日(水)に打ち上げられました。

ChubuSat-2 は①地球起源の放射線モニタ

観測、②アマチュア無線の中継を目的としており、ChubuSat-3 は①温室効果ガスの影響把握、②地球周回軌道デブリ環境観測を目的にしています。

小田康文さんは本学の工学部 総合機械工学科 ロボティクス専攻を卒業した後、本学大学院の工学研究科 機械工学専攻 ロボティクスコースを昨年3月に修了し、現在は高校の教員を務めています。小田さんが製作した部品は、ChubuSat-3 の衛星のアンテナを展開する際のヒンジ部で、強度解析や、施策実験(強度試



験、展開試験)を実施し、開発しました。そして、ChubuSat-2 のアマチュア無線アンテナの展開機構にも適用されました。

工学部 総合機械工学科 ロボティクス専攻

あいち ITS ワールド 2015 ロボット展に出展・実演しました



工学部 総合機械工学科 ロボティクス専攻の学生が、2015年11月20日(金)～23日(月)にポートメッセなごで開催された名古屋モーターショー内のあいち ITS ワールド 2015 ロボット展に出展し、実演を行いました。

本学オリジナルの有松・鳴海絞ロボット、空中ブランコロボットおよびロボット研究部による

小型二足歩行ロボットの操縦体験を行い、学生が解説をしました。終始好評で、今回の電動小型絞ロボットでは、情報デザイン学科プロダクトデザイン専攻の横山弥生研究室とのコラボによる乙姫さんが簡易型の「しぼつもり」とあわせ、子供達に人気でした。

杉本幸雄研究室(情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻)

3/12(土)、東海ラジオで制作したラジオドラマが放送されました

3月12日(土)20:00～20:30、東海ラジオ 1332kHz&92.9MHzで、杉本幸雄研究室(メディアデザイン専攻)が制作したラジオドラマ「心の温度、心の距離」が放送されました。

このラジオドラマは、松永涼太さん原作の作品で、杉本教授がプロデューサーを務め、杉本研究室の学生が製作しました。

東海ラジオのホームページはこちら <http://www.tokairadio.co.jp/>



上岡和弘研究室(情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻)

研究室のHPが愛知ブランド企業HP内に設置されました

上岡和弘研究室では、毎年県が認定する愛知ブランド企業のPR活動を県の産業振興課と連携して行っています。学生たち数人のグループごとに担当企業を決め、企業PR計画の

立案からコンテンツの制作まで、その企業に実際に何度も足を運び、取材や打合せを重ねながら、PRビデオを制作しています。

この連携活動の紹介として、愛知ブランド企

業ホームページ内で、上岡研究室のホームページが設置されました。このようなことは、大学の一研究室としては非常に珍しいことです。

研究室のホームページはこちら http://www.aichi-brand.jp/AQPR_UeokaLab/

横井健二研究室(情報学部 情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻)

「心いっぱい、てづくり展」を本学で開催 5/20(金)まで中川区の「カフェ&デリ モナミ」でも開催します

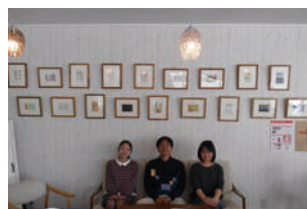
1月7日(木)から1月21日(木)まで、本学展示室にて「心いっぱい、てづくり展」が開催されました。

本展示では、横井研究室で実施している卒業研究テーマの1つである、「障がい福祉サービス事業所支援」の活動成果である、恵那市明智町の市障がい福祉サービス事業所「明智ひとつばたご」と協力して、制作したアート作品が展示されています。

また、3月18日(金)～5月20日(金)まで、名古屋市の中川区にある「カフェ&デリ モナミ」でも開催しています。展示するにあたり、この卒業研究に取り組んだ、赤見さんと遠山さんがハガキやパネル、作品説明パンフレットを作成しました。

この展示は3月29日(火)付の中部経済新聞でも紹介されました。

アクセス カフェ&デリ モナミ
〒454-0022
愛知県名古屋市中川区露橋2丁目29-13
TEL 052-655-6456



▲カフェ&デリ モナミにて



▲本学展示室にて



▲中部経済新聞(3月29日)

横井健二研究室(情報学部 情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻) 学生の卒業研究での取り組みが商品化!

情報学部 情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻 横井研究室の学生三名が卒業研究で取り組んでいた成果が商品化になりました。

連携先は名古屋市市中川区にある、株式会社近藤印刷で、ノベルティグッズを得意とする会社です。横井研究室の学生の辻本智さん、判治大

株式会社 近藤印刷のホームページはこちら <http://www.noah-digital.co.jp/pr/sangaku.html>

揮さん、前田高志さんは、グッズデザインの提案を行いました。学生のアイデアは実際に商品としてメニュー化されて、実際の受注を待つばかりの状態に至りました。

学生のアイデアは、株式会社 近藤印刷のホームページで見ることができます。(学生さん

アイデアその8~10)

種のついたカードをそのまま土に植えて育てられる「種付きカード」など、あったら嬉しいアイデアばかりです。

ぜひホームページで学生のアイデアをご覧ください。

情報学部 総合情報学科 かおりデザイン専攻

東海市教育委員会主催「ものづくり体験事業」で講座「好みのバスソルトを作ろう!」を開催

東海市教育委員会が主催する「ものづくり体験事業」で、におい・かおりについて学ぶ講座「好みのバスソルトを作ろう!」が小学生を対象に開催され、本学 情報学部 総合情報学科 かおりデザイン専攻 光田恵教授と、同専攻の学生9名がバスソルトの作り方を指導しました。

東海市では、未来のものづくり産業を支える子どもたちを育むために「ものづくり体験施設」の整

備を進めており、そこで、多くの子どもたちにもものづくりの楽しさを知ってもらうための啓発事業として、「ものづくり体験事業」を実施しています。

その一つとして開催された今回の講座は、キャンセル待ちが出るほどの人気。元気のいい小学生 80 名は、バスソルトづくりだけでなく、「におい」を当てるクイズにも一生懸命取り組みました。



好みの色の岩塩に香料を加えてバスソルトづくりを楽しみ、思いおみの出来栄に満足した様子でした。

南区南部いきいき支援センター主催「家族サロン」で「バスソルト作り体験」を担当しました

南区南部いきいき支援センターが毎月開催している、認知症高齢者を介護する家族の介護負担等の軽減や仲間作りを目的とした、認知症高齢者を介護する家族支援事業の「家族サロン」で、かおりデザイン専攻の学生 10 名が 1 月 12 日(火)に行われた「バスソルト作り体験」を担当しました。

「バスソルト作り体験」は普段介護をしている

方を、学生が持っている知識を生かし、「アロマ」で癒すことを目的に行われました。

かおりデザイン専攻で学んでいる臭いの仕組みや効能、消臭対策などについて簡単に説明の後、メインのバスソルト作りが行われ、学生と参加者で感想を伝え合うなど、有意義な時間を過ごすことができました。



X4デザイン専攻・リレー展 卒業制作展を開催しました

大同大学「X4デザイン専攻・リレー展」は、本学デザイン系の専攻から4専攻、建築専攻・インテリアデザイン専攻・メディアデザイン専攻・プロダクトデザイン専攻がそれぞれ専門分野の魅力を広く学外の人たちにも知ってもらいたいという思いからスタートした展覧会です。

それぞれの専攻がバトンを手渡していくリレーのように、名古屋市内の様々な場所で順次展覧会、発表会を行いました。

2月に市民ギャラリー矢田で建築専攻・インテリアデザイン専攻の卒業研究選抜展、ナディアパークでプロダクトデザイン専攻の卒業



制作展を開催したほか、千種文化小劇場でメディアデザイン専攻のサウンドアートコンサートを開催。また、3月にセントラル・アートギャラリーでメディアデザイン専攻の卒業制作セレクト展を開催しました。

写真提供：アルバム委員会



▲建築専攻、インテリアデザイン専攻



▲メディアデザイン専攻



▲プロダクトデザイン専攻

澤岡昭学長

日本テレビ「ZIP!」に出演し、商業衛星打ち上げについてコメント

11月25日(水)、日本テレビ「ZIP!」(月～金、朝5:50～)で、澤岡学長が11月24日に打ち上げられた商業衛星についてコメントしました。

番組では、日本で初めてとなる民間企業からの受注による「商業目的」の衛星打ち上げに

ついて特集が組まれました。

これまで宇宙産業市場の大半はロシアとヨーロッパが占めていましたが、今回の打ち上げは日本の宇宙ビジネスの新たな一歩として期待されています。

宇宙産業の専門家として意見を求められた

澤岡学長は、日本の宇宙ビジネスの新展開について、5年後には世界で5%くらいのシェアが期待できる。順調にいけば10%、20%とシェアが伸びていくのではないかとコメントしました。

北朝鮮ミサイル発射問題についてテレビと新聞でコメント

2月7日(日)9時1分、北朝鮮の人工衛星と称するミサイルが打上げられ、12時と19時のNHK全国ニュースに澤岡学長のコメントが放映されました。その後、8日(月)にはTBS(CBC)、日本テレビ(中京テレビ)、テレビ朝日(名古屋テレビ)、13日(土)にTBS(CBC)で放映されました。新聞では全国紙に4回と国際紙のJapan Timesに1回のコメ

ントが掲載されました。

澤岡学長は超高速飛翔に関する研究業績によって1993年にInternational Ballistic Awardを受賞しており、今回のミサイル発射問題では、わが国の数少ない専門家の一人として多くのメディアより意見が求められました。



白石裕之教授(工学部 機械工学科)

プラズマ・核融合学会誌で小特集、編集後記を担当 国際会議報告も掲載されました

プラズマ・核融合学会誌副主査(エディター)でもある白石教授が、プラズマ・核融合学会誌の第91巻第10号で小特集「プラズマアクチュエータの動向」の共同著者として執筆にかかわり、また、第12号で編集後記、第92巻第2号では国際会議報告を担当しました。

第10号の小特集「プラズマアクチュエータの動向」では、ここ10年でマイクロ流体制御デバイスとして注目を集め、活発に研究が行われているプラズマアクチュエータに関する成果を6題目に渡って紹介。白石教授は「1.はじめに」と「6.まとめ」を共同著者として担当。「1.はじめに」では、プラズマアクチュエー

タ研究の背景やその原理・性能などについて、「6.まとめ」では、今後進めるべき研究や標準化に向けた動きなどについて述べられました。また、小特集の執筆者紹介では、白石教授の経歴、専門と合わせて、趣味が歴史散策、音楽(エレクトーン)であることや、語学に関しては1級を含む6か国語の検定級を持つことなども紹介されました。

第12号の編集後記では、白石教授が2011年に代議員に選出されてから学会との付き合いが本格化したこと、学会本部が名古屋にあるために東京や大阪に伺いを立てる必要性が軽減されたことなどの学会との関係が述べられました。

また、2月に発行された第92巻第2号には、2015年10月に米国で行われた国際会議(Gaseous Electronics Conference 2015)の会議報告が掲載され、「プラズマ応用分野」について白石教授が担当。講演によっては立ち見聴講者が多く出たほどの盛大さであったことや、白石教授の専門分野である電磁波プラズマエンジンはあまり知られていない一方で、機械・航空宇宙工学分野としてプラズマアクチュエータやプラズマ支援燃焼が独立したセッションを持っていたことが極めて興味深かったことなどが述べられています。

坪井涼准教授(工学部 機械工学科)

「第6回トライボロジー秋の学校」で実行委員長を務めました



12月17日(木)～18日(金)に、あいち健康プラザで開催された「第6回トライボロジー秋の学校 in 愛知 - 集まれ!若きトライボロジスト! -」において、坪井准教授が実行委員長を務めました。

このイベントでは、トライボロジーに携わる若手の研究者や学生が交流を深めるための研究成果発表・企業技術展示が行われました。参加者は教育関係機関から4名、一般企

業・研究所から24名、学生が53名、企業展示13社と盛況で、東海地区の企業からの参加者も多く、本地域における大学と企業の研究者との交流の機会となりました。

本学からも大学院生4名が参加し、日頃の研究成果を発表しました。惜しくも受賞には至りませんでしたが、参加者から非常によい評価を頂きました。

学会誌「トライボロジスト」で特集企画の担当をしています

日本トライボロジー学会の学会誌「トライボロジスト」で坪井准教授が編集委員として、年に数本ある特集企画の担当をしています。

「トライボロジスト」は新しい技術の解説、研究分野の展望、会員の研究成果などが掲載されており、ホットなテーマをとらえて編集された学会誌「トライボロジスト」(日本トライボロジー学会 ホームページ) <http://www.tribology.jp/publication/journal/index.html>

れる特集号は最先端の参考書として役立てられています。

「トライボロジスト」第60巻の第3号「表面テクスチャリング - 機能発現のためのテクスチャ創製(1)-」、第4号「表面テクスチャリング - 機能発現のためのテクスチャ創製(2)-」、第

6号においては「トライボロジー Who's Who 2015」と題し、第6号「トライボロジー Who's Who 2015 (1)」と第7号「トライボロジー Who's Who 2015 (2)」について、坪井准教授が執筆した「特集号発刊によせて」が掲載されています。

山田靖教授(工学部 電気電子工学科)

はんだ・微細接合部会シンポジウムで講演しました

12月18日(金)に、溶接会館ホールで行われた「はんだ・微細接合部会シンポジウム〜世界をリードする電子部品とその実装技術〜」で山田教授が講演しました。

このシンポジウムでは、電子部品にフォーカスをあて、電子部品技術のロードマップから関連実装技術及び信頼性評価法まで、最新

技術について9つの講演がなされました。

山田教授は、「パワー半導体用 Cu ナノ粒子接合の信頼性」と題して、近年、パワー半導体デバイスについて、Ag系ナノ粒子接合の研究が盛んである中、より低コストな方法に着目し、Cuナノ粒子接合について検討したことや、その方法、また、Cuナノ粒子を用いた接合は、

Sn系はんだに比べ高い信頼性を有し、パワー半導体デバイスの高温動作として可能性があるという結果が得られたことについて、講演しました。80名もの参加者を集め、もっとじっくり質問したかったの声もあるほど、盛況のうちに終了しました。

ネプコンジャパン2016でセミナーの講師を務めました

1月13日(水)〜15日(金)に、東京ビッグサイトで行われた、ネプコンジャパン2016の【第17回半導体パッケージング技術展】にて、山田教授がセミナーの講師を担当しました。

ネプコンジャパン2016では合計2230社

が出展しており、そのうちの第17回半導体パッケージング技術展は、150社が出展しました。山田教授は、1月13日(水)の【ますます本格化するパワーエレクトロニクスモジュール!ロードマップと高信頼性技術】にて『パ

ワーエレクトロニクス』の高信頼性を支える接合技術の動向と課題』のテーマで講演を行い、EV/HV技術や次世代パワー半導体、パワーエレクトロニクス用接合技術について、話がなされました。

加藤和雄教授(工学部 建築学科 建築専攻/インテリアデザイン専攻)

第5回E&G(エクステリア&ガーデン)DESIGN 学生デザイン大賞で審査員を務めます

「第5回E&G(エクステリア&ガーデン)DESIGN 学生デザイン大賞」で、加藤教授が審査員を務めます。

「第5回E&G DESIGN 学生デザイン大賞」は、5月13日(金)、14日(土)にポートメッセなごや3号館で開催される「第7回エクステリア&ガーデンフェア名古屋2016」において、学生を対象として企画されたものです。

「花・緑と生活のつながりー幸せ感あるエクステリアー」をテーマに、住空間、商業空間、公共・都市空間のエクステリアの分野で、住まい方や利用の仕方、身体面・心理面、省エネ・環

境性等の要素と空間の関わり方を考えた空間デザインについて、学生の新鮮で独創的かつアリティーある提案から、幸せ感のある生活、環境、空間創造の向上を目的としています。

応募期限は2月29日(月)※当日必着で、4月上旬に加藤和雄教授らによる審査が行われ、最優秀賞、『住空間のエクステリア』、『商業空間のエクステリア』、『公共・都市空間のエクステリア』の3部門でそれぞれ優秀賞、また特別賞などが選ばれます。5月14日(土)午後(予定)には、ポートメッセなごやにて、授賞式と最優秀賞・優秀賞受賞者による10分程度の作品のプレゼ

「第7回エクステリア&ガーデンフェア名古屋2016」公式ホームページ <http://eg-fair.jp/index.html>



ンテーションが行われます。また、「第7回エクステリア&ガーデンフェア名古屋2016」会場内には応募された全作品が展示されます。

渡邊慎一教授(工学部 建築学科 建築専攻/インテリアデザイン専攻)

人間—生活環境系学会で論文賞を受賞しました

11月20日(金)・21日(土)に開催された人間—生活環境系学会「第39回人間—生活環境系シンポジウム」で、渡邊教授が論文賞を受賞しました。

このシンポジウムは、人間と生活環境に関連する広い分野の知識や技術を有機的に結合し、健康で快適に活動できる生活環境の実

現に努め、人々の生活の質の向上に貢献することを目的として開催されています。

渡邊教授は「日傘による直射日射の人体投射面積遮蔽率」について論文を提出し、本学で非常勤講師を務める石井仁先生と連名で論文賞受賞に至りました。



鷺見哲也准教授(工学部 建築学科 土木・環境専攻) 庄内川水防災フォーラムでパネルディスカッションの 司会を担当、各メディアで紹介されました

12月22日(火)、今池ガスホールにて行われた、国土交通省庄内川河川事務所「庄内川水防災フォーラム」の開催において、鷺見准教授がパネルディスカッションのコーディネーター(司会)を担当しました。

基調講演では、東海豪雨の当時の状況、今年9月の鬼怒川の災害の状況について報告と振り返りが行われました。

まとめとして、鷺見准教授は、「各自治体は避難に責任を持っているが、鬼怒川での災害を教訓に、河川管理者である国土交通省などと協力し、住民の行動につながる情報を協力

して整理し示していく必要があり、メディアもその情報伝達や啓発に協力しなくてはならない。一方で、住民も東海豪雨から15年経って経験していない新住民や若者が増えており、その経験を継承し意識を高め、地域で協力するとともに、行政からの情報を理解して行動に結びつけられるようにしなくてはならない。河川管理者、自治体、市民、メディアが、確実な避難に結び付けられるよう互いに協力していく必要があることが、このフォーラムで確認できた。」と述べました。

このフォーラムについては、12月23日(水)・



▲毎日新聞(12月23日)

1月22日(金)付の毎日新聞、12月22日(火)のNHK名古屋「ニュース845」(20:45～)でも紹介されました。

嶋田喜昭教授(工学部 建築学科 土木・環境専攻) 「第14回 都市計画行政における官学連携研究会」で進行役を務めました



2月5日(金)に名古屋都市センターにて開

催された、公益社団法人日本都市計画学会中部支部の「第14回 都市計画行政における官学連携研究会」で、嶋田教授が進行役を務めました。

公益社団法人日本都市計画学会は、都市計画及び地方計画に関する科学技術の研究発展を図るために設立され、中部支部は、本地域における都市計画に関する学術の進歩普及と都市計画の進展、及び都市計画に係る専門家の資質の向上を図る活動を行っています。

また、嶋田教授は、中部支部 行政連携委員会の委員長を務めています。

研究会では、支部長である中部大学教授の磯部氏や、国土交通省中部地方整備局の間宮氏による報告のほか、大学有識者と東海3県と2政令市(名古屋、浜松)、および愛知県下7市の都市計画部局の担当者ら合わせて25名による、都市構造のコンパクト化における空き家等の課題に関して議論が交わされました。

田中秀和教授(情報学部 情報システム学科 コンピュータサイエンス専攻) なごや環境大学 共育講座「ごきそテクノカフェ in 鶴舞」で講演

2月20日(土)に開催された、名古屋工業大学ごきそ技術士会主催 なごや環境大学 共育講座「ごきそテクノカフェ in 鶴舞」で、田中教授が講演しました。

この講座は全6回のシリーズになっており、2015年10月より、JR中央線 鶴舞駅高架下

の喫茶「サンデン」にて開催されています。田中教授は、2月20日(土)の第5回目のイベントで、「ビッグデータの利活用とプライバシーの保護」と題して講演を行いました。講演では、マイナンバー制度が本格的にスタートし、政府が推進しようとしているビッグデータの利

活用の政策と、個人情報の漏洩対策や特にプライバシーの保護対策が大きな話題となっている中、あらためて、「ビッグデータの利活用とプライバシーの保護」について、話題となっている多くの事件を題材にして主な論点を解説し、参加された市民の方と議論を行いました。

上岡和弘教授(情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻) デザイン思考活用セミナーで講師を担当しました



2015年11月、12月に3回にわたり、国際デザインセンターにて開催された、中部経済産

業局 産業支援機関と中小企業等を対象にした「デザイン思考」普及啓発事業 主催のデザイン思考活用セミナー「デザイン思考を知って経営革新・事業拡大への第一歩」で上岡教授が講師を担当しました。

このセミナーは、事業がデザインの利用価値に気づき、問題解決・目標達成・新規開発のためのデザイン思考(発想法)を理解して活用することを望み、中小企業等支援におけるデザイン思考の幅広い活用につなげ、中小企業へのアドバイス・サポートにおいて「デザイン思考」の活用、普及を図ることを目的としています。

上岡教授が担当したのは、セミナー最終回の12月10日(木)に行われた「販路拡大手法」についての講義で、テーマは「マーケティングとプロモーション」。製造・流通・情報サービス業などそれぞれの分野特有と共通のマーケティングを知り、消費者のニーズをつかみ、販路開拓・拡大のための効果的な活動(デザインやイベント、プロモーション)の方法と組み立て発想を学ぶものです。

その他、「海外販路開拓のアイデア」をテーマとしたワークショップ体験でも、上岡教授が講師の1人として活躍しました。

小島一宏准教授(情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻) 朗読キャストを務めました

2015年12月11日(金)、名古屋市東文化小劇場で行われた、名古屋市文化振興事業団主催『心に響くものがたりをあなたに～朗読で贈る珠玉の短編集～』で小島准教授が朗読キャストを務めました。

名古屋芸術大学美術学部アートクリエイターコースの学生たちが舞台美術を担当し、照明と音響は専門学校名古屋ビジュアルアーツの専門

学校生たちが担当。さらに劇座の養成部門・劇塾のメンバーがパフォーマンスをして、物語世界がステージに展開される中で、名古屋で活躍されている女優の、いこの福代さん、益川京子さんとともに、海外の名作短編を朗読しました。

小島准教授は、H.C. アンデルセン 著/小宮由 訳の『モミの木』を朗読。加えて、当日は名古屋を舞台にした創作短編小説を広く募集し入賞作



品を決める「第9回ショートストーリーなごや」コンテストの授賞式も行われ、その大賞作品『エヌ!』(中山裕介さん作)の朗読も担当しました。

『第37回ヨコハマ映画祭』の司会を担当しました

2月7日(日)に、横浜の関内ホールで行われた『第37回ヨコハマ映画祭』で、昨年に引き続き、小島准教授が司会を担当しました。

“映画ファンのための熱いまつり”と謳われている『ヨコハマ映画祭』は、スポンサーを付けない文字通り“映画ファンが作るファンのための映画祭”として長く定着している注目のイベントです。その「表彰式」には、前年に公開された日本映画の中から主演男優賞、助演女優賞、最優秀新人賞、監督賞、撮影賞、脚本賞などの“個人賞”に選出された俳優や映画スタッフがほぼ勢揃いし、とても華やかでなごやかなステージが繰り広げられます。

俳優やスタッフたちは、しがらみのない、本当に映画を愛するファンたちが純粋に選んでくれる映画賞として『ヨコハマ映画祭』に注目しています。

小島准教授は以前、東海ラジオの映画専門番組のパーソナリティを務めている時期に、毎年、映画祭の楽屋に取材に出掛けており、その縁で昨年からは司会という大役を務めています。受賞者全員にインタビューするという、かなりプレッシャーのかかる役目であるものの、小島准教授自身、楽しみながら務めているとのこと。今年は午前中にいらっしやった光石研さんも含め、個人賞に選ばれた全員が登場する、非常に



盛り上がる舞台となりました。綾瀬はるかさん、広瀬すずさん、永瀬正敏さんが登壇。中でも「特別大賞」を贈られた樹木希林さんは満員の観客を爆笑の渦に巻き込むトークで映画祭を大いに盛り上げました。

ヨコハマ映画祭について詳しくはこちら <http://homepage3.nifty.com/yokohama-eigasai/>

渡部裕子准教授(情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻) アジア創造美術展(ASIA CREATIVE ART EXHIBITION)にて金賞受賞

東京新国立美術館で開催された、アジア創造美術展(ASIA CREATIVE ART EXHIBITION)にて、渡部准教授が金賞を受賞しました。

「風無常」というテーマで作られた作品は風

雨にさらされて運ばれてきた流木や石などとともに立体書が配置されており、高さは4mにもなります。

日本とアジアのクリエイターが集い、文化の融合と共生に資することを目的としたこの展覧

会、今回は世界各地から選ばれた約200名のなかでの金賞受賞となりました。



横山弥生教授(情報学部 情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻) 女性のための生活情報誌「リビング」で 紹介されました

12月5日(土)、名古屋リビング新聞社発行の女性のための生活情報誌「リビング 名古屋みなみ新都心」、「リビング 名古屋中央」に、横山教授が紹介されました。

たまたま大学に訪問された記者が、その時に本学で開催していた柊×アート展を見て、情報学部 情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻取材したいとの話に展開。後日、横山教授への取材が行われました。

記事では、「モノづくり愛知・名古屋」が機械産業だけでなく、様々な領域で全国のモノづくりをリードする存在であることから、学生の創

作意欲を頼りにモノづくりの未来への期待感を社会に示していこうと元氣な、本学プロダクトデザイン専攻が紹介されました。

そのプロダクトデザイン専攻の学生を指揮する横山教授は、現在は手触りのあるモノづくりの道に可能性を求めていると紹介がなされ、「産学」連携が盛んである中、本学も「産学」連携に積極的な例として、柊×アートプロジェクトの内容や学生が愛知トリエンナーレで販売したカップホルダーも写真とともに紹介されました。横山教授は、「学生ならではの限らない夢を形あるモノづくりへと生かし、地域に開かれた学



園へと成長していければ」とコメントしました。

横山弥生教授(情報学部 情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻) 12/16(水)NHK総合 「ほっとイブニング」に出演しました

12月16日(水)、NHK 総合「ほっとイブニング」(月～金、18:10～)の「東海モノ語り」のコーナーで、横山教授が出演し、本学で撮影が行われました。

コーナーでは、伝統と歴史がある漆の、新しい技法で広がる可能性についての話がなされ、新しい技法を生み出した漆塗り職人の都

築さんに密着。型さえあればどんな形のものでも漆で作ることができる新しい技法に注目する一人として、横山教授が出演されました。横山教授は、新たなアート作品につながるのではと注目し、「漆のアート作品がどかんと美術館に出たら世界を驚かす」とコメントしました。



▲本学での取材の様子

A棟二階学生ホールに作品が飾られています!

昨年末より、A棟2階学生ホールに横山教授の作品が飾られています。

作品のタイトルは、「悠久 Everlasting I」

(写真上)と「悠久 Everlasting II」(写真下)。大ききの違う、2つの作品で学生ホールの空間がとても華やかになりました。



—横山教授による作品についてのコメント—

私がコンピュータを使って表現するモチーフの数々は、幼少の頃からの自然観察が原点にあります。

常に自然が織りなす動きや形状の面白さを探っており、そのような世界を再現しようと創作に取り組んで来ました。

制作にあたって、まずは数理造形による3D形状を作成し、コンピュータ上の3D空間に配置します。

次にプログラムで発生させた2Dのパターンを重ね合わせます。3Dと2Dの間を行き来するうちに、万物の息吹や宇宙空間などが次第に姿や動きを帯びてきます。

本作品は「永遠」がテーマで、生命の神秘や過去から未来へのはるかな時の流れを表現しています。

横井健二教授(情報学部 情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻) 新産業創出研究会で講演しました



2015年12月2日(水)に一宮市の商工会議所で行われた、新産業創出研究会の第4

回例会にて、横井教授が講演を行いました。

新事業展開を模索する、新産業創出研究会の第4回例会にてプロダクトデザインというものを知ることによって、新事業検討の一助とすることを目的としており、「お客様視点で製品デザインを考える」というテーマで講演がなされました。

講演内容としては、プロダクトデザインの仕事とは、人の生活や社会のありかたを観察して独自視点での新たな概念のモノを作り出す仕事であることや、デザインとは機能や使い

勝手も含めたもので、単に色や形といった外観だけではないこと、顧客視点でのデザインが重視される時代でのデザインシンキングなどについて話がなされました。

また、本学のプロダクトデザイン専攻の学生の卒業研究の作品である、半身麻痺の女性向けの化粧品デザインと、キャリーバッグのように公共交通に持ち込める電動バイクのデザインが、横井教授の前職の時代に行った製品化の事例と合わせて、プロダクトデザインの事例として紹介されました。

S-Cube(スクリーン印刷青年会)の研修会で講演

3月4日(金) 安保ホールにて開催された、S-Cube(スクリーン印刷青年会)の研修会で横井教授が講演を行いました。

S-Cube(スクリーン印刷青年会)とは、スク

リーン印刷に関連している企業、団体、学校等に籍をおくもの、またはスクリーン印刷に関心のある個人をもって組織する青年会で、年4、5回の研修会を行っています。

横井教授は、「デザイン視点で新たなビジネス展開を考える」という題で、S-Cubeでの新商品開発、新事業開発にデザインの視点を盛り込むことについて講演しました。

大東憲二教授(情報学部 総合情報学科 経営情報専攻)

「第9回地盤沈下に関する国際シンポジウム」の実行委員長を務めました

11月15日(日)から19日(木)まで、名古屋国際会議場で開催された、UNESCO主催「第9回地盤沈下に関する国際シンポジウム(NISOLS)」の実行委員長を大東教授が務めました。

大東教授は、この国際シンポジウムに過去4回参加しており、2010年以降、UNESCOのWorking Group of Land Subsidenceのメンバーに加わっています。Working Groupの会議は毎年行われ、世界各国で開催されています。

大東教授は、日本の政府機関、および開催地の愛知県、名古屋市との調整や京葉天然ガス開発協議会や充填技術協会にも協力の依頼をしました。

当日の運営には、建築学科 土木・環境専攻の3年生と4年生、および総合情報学科 経営情報専攻の2年生と4年生の有志が、受付や会場係などを担当しました。

本会議では、日本を含め15ヶ国から、約100名の参加があり、口頭発表論文53編、ポスター発表46編、合計99編の研究論文が発表されました。

また、Cultural Activityとして、参加者の多くが、名古屋城、栄オアシス、テレビ塔、大須観音を見学。Field Tripとして、濃尾平野の地盤沈下状況を視察するコースと岐阜県御嵩町の亜炭坑を視察する2つのコースに分かれて、視察を行いました。Cultural ActivityとField Tripにおける参加者の移動には、大同大学のバス3台が活躍しました。

本会議とは別で、ブース展示が13日(金)から17日(火)まで同時開催され、本学の建築学科 土木・環境専攻を始め、8つの機関・団体が展示を行いました。11月13日(金)と14日(土)には、地盤沈下の調査法、地下水流動解析、地盤情報データベースに関するワー



ショップが開催され、こちらでも活発な議論がされました。また、11月20日(金)から22日(日)には、Post Conference Tourがあり、東日本大震災による津波被害を受けた地域へ行き、被災状況と復興街づくりの様子を視察しました。これは、大東教授の知り合いの東北大学の先生を通して可能になったもので、参加者は、津波被害の甚大さと合わせて復興事業のスケールの大きさに驚いていました。

12/8(火)「ほっとイブニング」「キャッチ!」でコメントしました

12月8日(火)NHK総合「ほっとイブニング」(月～金、18:10～)に出演し、名古屋駅前の歩道陥没についてコメントしました。

大東教授は、名古屋市の地下水の水位は半世紀近くの間上昇しており、また、名古屋市の水は、東が高く西が低くなっていることも影響すると指摘。地下水の水位が高い場所でビルなどを建築する際に地下を地下水の流入を防ぐための壁をしっかり作ることが重要とし、「地下の工事が増えてくれば、地下の掘削工事、

特に、地下水の管理をきちんとやりながら工事していくことが必要になってくる。周辺の地下水の状態の変化をしっかりとらえながら工事をしていく。工事の安全性もそうですし、周辺の地下水流動の変化に対すること両方を考えて地下水をしっかり見ていってほしい」とコメントしました。

また、同日の中京テレビ「キャッチ!」(月～金、15:50～)にも音声のみで出演し、名古屋駅前の歩道陥没について解説しました。



梅田礼子准教授(教養部 外国語教室)

国際学会でベストペーパー賞を受賞しました

11月15日(日)・16日(月)にシンガポールの南洋理工大学にて開催された教育と学習に関する国際学会で梅田准教授がベストペーパー賞を受賞しました。

梅田准教授は担当する英語授業でこれまでに試みてきた、マルチプルインテリジェンスの考

えに基づくアクティビティーをいくつか紹介し、学習者の動機づけについて報告しました。

この学会は英語教育に限らず様々な分野の教育者が参加しており、今回の報告は他の分野にも応用していくことができると評価され、受賞に至りました。



齊藤慎太郎監督・佐藤壮一郎監督(ハンドボール部)

雑誌「スポーツイベントハンドボール」で解説

ハンドボール雑誌「スポーツイベントハンドボール」の3月号と4月号で、齊藤監督(女子ハンドボール部)と佐藤監督(男子ハンドボール部)が、スキルアップシリーズ「役割とシュートを見極める『ポストプレーヤー』Part1・Part2

の解説をしました。

記事の解説者紹介では、齊藤監督・佐藤監督の現役時代の活躍から、現在の日本代表監督としての活躍が紹介され、ポストに必要な能力と役割について解説。また、基礎の体力面を

鍛える練習メニューとして、ストレッチやトレーニング方法などについても解説がなされ、手本として本学のハンドボール部の学生も出演しました。



自販機オリジナルラッピングデザイン採用者決定!

10月26日(月)～11月30日(月)まで、学生室が募集していた、自動販売機のオリジナルラッピングデザインの採用者が決定しました! 応募総数 92 件と、たくさんの学生・院生が応募してくれました。

大同大学内に設置する自販機の前面と両側面のデザイン(※商品ガラス面は除く)で、大同大学をイメージするもの、多くの人に親しみや愛着を持ってもらえるようなデザインを募集

し、学生部等で審査した結果、17 点の作品が選ばれました。

現在、キャンパス内の自動販売機には、実際に採用されたデザインのラッピングが施されています。

また、応募された方には「ドリンクメーカーオリジナルロング T シャツ」がもれなくプレゼントされ、採用された方には「ドリンクメーカーオリジナルブルゾン」がプレゼントされました。



中国・韓山師範学院の短期留学生を受け入れました

11月16日(月)～11月27日(金)、大学の学術交流協定締結校である中国・韓山師範学院から大学生 9 人が短期留学生として来学しました。

16日(月)のプログラム初日は、大学施設と名古屋市内の見学を行いました。夕方からはウェルカムパーティーを開催。本学学生も参加し学生同士の交流の場となりました。約 10 日間の留学中には、様々な講義や工場見学のほかに、放課後や休日には大須散策やカラオケ、明治村、犬山城の観光など日本の文化に触れ

る機会も多くありました。

27日(金)に無事全プログラムを終え、修了式が行われました。フェアウェルパーティーでは、参加学生が 1 人ひとりプログラムについて感想を述べました。学生同士も打ち解けた様子で大変和やかな雰囲気となりました。

参加学生はとても積極的で目的意識をもっており、本学の学生にとっても国際感覚を養う有意義な機会となり、よい刺激となりました。



将来の工業の発展、さらには日中の友好関係に期待したいです。

第5回異分野交流会が行われました



11月25日(水) 本学 A 棟 1 階学生ホールにて、第 5 回異分野交流会が行われました。

この交流会は、教員がそれぞれの専門分野と自身の研究・創作活動について、異なる分野の人たちと相互に解説・発表し合うことで、学科や分野を超えたつながりを作ることなどを目的として開催されています。

5 回目となる今回は、松木孝文准教授(教養部 人文社会教室)による講演が行われました。松木准教授は、『ものづくりとまちづくり：妖怪会議(仮)へのお誘い』と題して、松木准教授と情報デザイン学科の教員、院生が携わったプロジェクトについて紹介しました。

「妖怪会議(仮)」とは「学生がデザインした妖怪関連のグッズを京都で売ってみよう」というプロジェクト。大学で身に着けた技術や知識が社会でどのように評価されるのか、学生に体験してもらうことを目的として立ち上がりました。

講演では、このプロジェクトを通じて「地域」に関わった体験の活動報告とともに、社会的な視点からの解説がなされました。

講演中にも参加者から質問やコメントが寄せられ、和気あいあいとした雰囲気での講演会が行われました。

なごや健康カレッジ大同大学講座を開催しました

11月13日(金)～12月18日(金)までの全 6 回、名古屋市在住の 65 歳以上の方を対象に「なごや健康カレッジ大同大学講座」を開催しました。テーマは「からだを動かす習慣をつけよう」。この講座は名古屋市と連携して、毎年本学で開催されており、高齢者が楽しんで運動すること、家庭内でも継続できる内容を実施すること、また、学生や受講者同士のふれあいを通じ、運動指導や、健康づくりだけでなく、

楽しい仲間づくりを目指したプログラムになっています。

講座では、教養部 保健体育教室の水野義雄教授、山田雄太准教授、情報学部 総合情報学科 経営情報専攻の齊藤慎太郎教授、佐藤壮一郎准教授が講話を担当したほか、本学の学生らもインストラクターとして、実践のサポートを行いました。



東海ラジオ『一週間のごぶサタデー』で『大同大学キャンパスリポート』がスタート!



情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻の小島一宏准教授がパーソナリティを

務める東海ラジオ(1332kHz/92.9MHz)の土曜ワイド『一週間のごぶサタデー』がこの春、放送時間を7:00~12:00の5時間に拡大。その9時台に新コーナー『大同大学キャンパスリポート』がスタートします。毎月第2・4土曜日の隔週放送です。

コーナーの柱は4つ。企業トップや大学のOB・OGに話を聞く「企業インタビュー」、教員や職員にスポットを当てる「大学おもしろ人物紹介」、アンケートで学生たちの趣味・嗜好

や思いなどに迫る「現代学生気質リポート」、そして大学のイベントや話題などを紹介する「キャンパス情報リポート」。それぞれ、学生スタッフたちが内容を検討し、取材・インタビューなどを行って、生放送のスタジオでリポートします!

学生たちに先立ち、初回の4月9日(土)と23日(土)は澤岡昭学長がスタジオに登場しました。今後、どのような内容が放送されるかお楽しみに!

東海ラジオのホームページはこちら <http://www.tokairadio.co.jp/>

新任教員紹介

高田 健 教授 工学部 機械工学科

本年4月に着任しました高田です。これまで企業の技術開発部門にて、プレス成形中心の塑性加工技術から原子クラスター制御までの幅広い研究開発に従事してきました。本学では実用化を視野に入れたミクロレベルでの基礎研究を通して、基礎学問の実用化の教育に取り組んでいきたいと考えています。

加納 善明 准教授 工学部 電気電子工学科

2016年4月1日に工学部電気電子工学科に着任しました加納です。専門は電気機械エネルギー変換工学(特にモータ)で、モータの構造設計と制御に関する研究に携わってきました。授業・卒業研究を通じて、ものづくりの楽しさや醍醐味をできるだけたくさん伝えていきたいと考えています。どうぞよろしくお願い致します。

高橋 之 講師 工学部 建築学科

2016年4月に建築学科に着任した高橋です。専門分野は鉄筋コンクリート構造です。鉄筋コンクリート造建物の耐震性能評価や補強方法の提案などを行ってきました。近年では途上国の地震被害調査なども行っています。国内外の建物が抱える問題点を学生とともに考え、ともに解決策を探っていききたいと思います。

芋野美紗子 講師 情報学部 情報システム学科

情報学部情報システム学科コンピュータサイエンス専攻に着任しました芋野美紗子です。出身は大阪、以前の勤務地は京都と、生粋の関西人です。自然言語理解、HCIといった分野が専門で、コンピュータやシステム、ロボットに「人間らしさ」を持たせるための研究を行っています。

田中 清喜 講師 教養部

2016年4月1日に教養部数学教室に着任しました田中清喜です。専門はポテンシャル論と呼ばれる調和関数に関する理論を扱っており、特にベルグマン空間について研究しています。大阪出身でまだまだ名古屋に慣れていない新任ですが、皆さんとともに頑張りたいと思います。よろしくお願い致します。

吉田 昌史 准教授 工学部 総合機械工学科

愛知で生まれ、学生生活を広島で送り、愛知・広島・静岡の私立大学で勤務し、この当地に戻って参りました。新たな生活を充実させるとともに、学生の方々とともに楽しみながら教育研究に励んで生きたいと思えます。

桑野 茂 准教授 情報学部 情報システム学科

企業の研究所でネットワーク関連の研究開発を行っていました。これまでの経験と知識を活かして、若い皆さんと一緒に研究や教育に取り組んでいきたいと思えます。名古屋は初めてですがよろしくお願ひします。

米澤 隆 講師 工学部 建築学科

2016年4月1日に工学部建築学科に着任しました米澤です。建築家として住宅、店舗、学習空間、公共空間、アート作品などの設計を手がけると共に、そこから得た課題や実感を基に、人と人、人と社会の間に流動的な関係性を構築する建築のありかたについて研究します。さらにそこから得た知見を、建築を通して都市や実社会へと展開するための設計手法に関する研究に取り組みます。実践と研究を架橋し実学としての教育に繋げられたらと考えています。よろしくお願ひします。

原田 昌明 講師 情報学部 情報デザイン学科

2016年4月1日に情報学部情報デザイン学科メディアデザイン専攻に着任しました原田です。CG映像分野が専門ではありますが、学部の際は油絵を専攻していました。デッサンなどの基礎的な部分はもちろんですが、写真や樹脂などを使った立体制作も行ってきました。現在も映像周辺の技術やメディアなどを積極的に取り入れた制作研究を行っています。

山内 昇 講師 教養部

教養部外国語教室に着任しました山内昇と申します。私の専門は英語学です。既存の英文法書や英和辞典において用法や機能の記述が不十分な表現を、英語の新聞や雑誌などから収集し、その特性を明らかにすることに取り組んでおります。

平成27年度 学位記授与式を挙りました

3月18日(金)、本学石井記念体育館で学位記授与式を挙りました。

学部生636人、大学院生21人が卒業・修了。澤岡昭学長は、「学生時代の友達は一生頼

りになる財産です。どうぞこれからも友達を大切にしてください。どのように変わろうとも大同大学はみなさんにとって一生頼りになるふるさとです。健康に気を付け、困難を笑って乗り越え、元

気で愉快的な人生を送られることを、心から願っています。」と告辞を述べました。

学位記授与式終了後には名古屋観光ホテルで卒業パーティーを行いました。



写真提供：アルバム委員会

学長賞(学部)

学 科	氏 名	指導教員
機械工学科	木本 卓壮	蔦森 秀夫
機械工学科	佐藤 仁志	徳納 一成
総合機械工学科	松井 啓太	平 博仁
総合機械工学科	竹内 達哉	尾形 和哉
電気電子工学科	加藤 優士	武田 秀雄
電気電子工学科	山崎 涼	堀尾 吉巳
建築学科	山下 麻維	武藤 隆
建築学科	佐宗 大輔	鷺見 哲也
情報システム学科	垣野 皓紀	大石 弥幸
情報システム学科	中山 泰宏	佐藤 秀樹
情報デザイン学科	草田 勝也	小島 一宏
情報デザイン学科	今泉 彩子	岡田 心
総合情報学科	上田 実穂	光田 恵
総合情報学科	玉井 里奈	光田 恵

学長賞(大学院)

専 攻	氏 名	指導教員
機械工学専攻	伊藤 智哉	篠原 主勲
機械工学専攻	松井 佑介	池田 洋一
電気・電子工学専攻	瀬瀬 博章	武田 秀雄
情報学専攻	磯崎 文音	光田 恵
情報学専攻	田中 智也	不破 勝彦

学長賞(課外活動)

学 科	氏 名	クラブ顧問
総合機械工学科	森 健二	大嶋 和彦
総合機械工学科	横山 真平	大嶋 和彦

人 事

●退 職

【法人本部・大学】

<教育職員>(H28.3.31)

平 博仁 工学部 総合機械工学科 教授
 矢野 治久 工学部 総合機械工学科 教授
 稲垣 卓造 工学部 建築学科 教授
 国立 勉 情報学部 情報システム学科 教授
 田中 秀和 情報学部 情報システム学科 教授
 水野 義雄 教養部 教授
 青山 正治 工学部 機械工学科 特任教員
 松浦 章裕 工学部 機械工学科 特任教員
 笠嶋 泰 工学部 建築学科 特任教員

<事務職員>(H28.3.31)

松下 賢則 企画調整部 情報室
 日比野忠雄 企画調整部 入試・広報室
 佐藤 修一 大学事務部 教務室

●採 用

【法人本部・大学】

<教育職員>(H28.4.1)

高田 健 工学部 機械工学科 教授
 吉田 昌史 工学部 総合機械工学科 准教授
 加納 善明 工学部 電気電子工学科 准教授
 桑野 茂 情報学部 情報システム学科 准教授
 高橋 之 工学部 建築学科 講師

米澤 隆 工学部 建築学科 講師
 芋野美紗子 情報学部 情報システム学科 講師
 原田 昌明 情報学部 情報デザイン学科 講師
 山内 昇 教養部 講師
 田中 清喜 教養部 講師
 瀬川 重男 教養部 特任教員
 (任期:H28.4.1~H29.3.31)
 水野 義雄 教養部 特任教員
 併任 情報学部 総合情報学科 特任教員
 (任期:H28.4.1~H29.3.31)
 平 博仁 工学部 総合機械工学科 特任教員
 (任期:H28.4.1~H29.3.31)
 矢野 治久 工学部 総合機械工学科 特任教員
 (任期:H28.4.1~H29.3.31)
 稲垣 卓造 工学部 建築学科 特任教員
 (任期:H28.4.1~H29.3.31)
 国立 勉 情報学部 情報システム学科 特任教員
 (任期:H28.4.1~H29.3.31)
 田中 秀和 情報学部 情報システム学科 特任教員
 併任 情報学部 情報デザイン学科 特任教員
 (任期:H28.4.1~H29.3.31)

<事務職員>(H28.4.1)

丹羽 信雄 企画調整部 情報室
 茂木 琢郎 企画調整部 入試・広報室
 安藤 空 大学事務部 学生室

●昇 任

【法人本部・大学】

<教育職員>(H28.4.1)

大澤 文明 工学部 電気電子工学科 教授
 上野 康平 教養部 准教授
 鈴木 雅博 教養部 准教授

<事務職員>(H28.4.1)

大脇 崇浩 企画調整部 経理室長(次長待遇)
 森川 博光 企画調整部 入試・広報室長(課長待遇)
 松井 健之 大学事務部 学務室長(課長待遇)
 加藤 淑恵 大学事務部 学生室(主査待遇)

●異 動

【大学】

<事務職員>(H28.4.1)

天池 公一 大学事務部 研究・産学連携支援室 主任部員
 小堺 貴夫 大学事務部 教務室 主任部員